

平成22年度

関西国際空港の存在・運用に係る

環境監視結果報告書

(自然環境編)

平成23年7月

関西国際空港株式会社

関西国際空港用地造成株式会社

はじめに

本報告書（自然環境編）は、平成 22 年度の自然環境項目（海域生物、陸生動物）の監視結果をとりまとめたものである。

なお、本報告書の監視項目は、「関西国際空港の存在・運用に係る環境監視計画」（平成 19 年 3 月（平成 22 年 8 月改正））に基づくものである。

平成 23 年 7 月

関西国際空港株式会社  
関西国際空港用地造成株式会社

## 自然環境項目

### [ 海域生物 ]

[ 資料 ] 工事の実施状況  
各月の監視結果の概要

# 海 域 生 物

# 目 次

## I 環境監視の概要

1 調査期間	.....	1 - 1
2 調査項目	.....	1 - 1
3 調査点	.....	1 - 1
4 調査内容	.....	1 - 4

## II 環境監視結果

### 空港島周辺海域

1 底生生物調査結果	.....	1 - 7
2 漁業生物調査結果	.....	1 - 11

### 内部水面海域

3 植物プランクトン調査結果	.....	1 - 15
4 動物プランクトン調査結果	.....	1 - 17
5 底生生物調査結果	.....	1 - 19

# I 環境監視の概要

## I 環境監視の概要

### 1 調査期間

調査期間は平成22年4月から平成23年3月である。

### 2 調査項目

空港島周辺海域の生物の状況を把握するため、プランクトン、底生生物、漁業生物等の調査を行った。これらの調査項目は表1-1に示すとおりである。

表1-1 調査項目

調 査 項 目
植物・動物プランクトン、底生生物、漁業生物

### 3 調査点

各調査点は表1-2、表1-3、図1-1及び図1-2に示すとおりである。

表 1 - 2 海域生物調査点 (緯度・経度) - 空港島周辺海域

調査点	北 緯	東 経
No. 1	34° 27' 37"	135° 15' 34"
No. 2	34° 27' 02"	135° 13' 02"
No. 3	34° 25' 06"	135° 11' 48"
No. 4	34° 24' 43"	135° 15' 35"

注) 緯度・経度は世界測地系である。

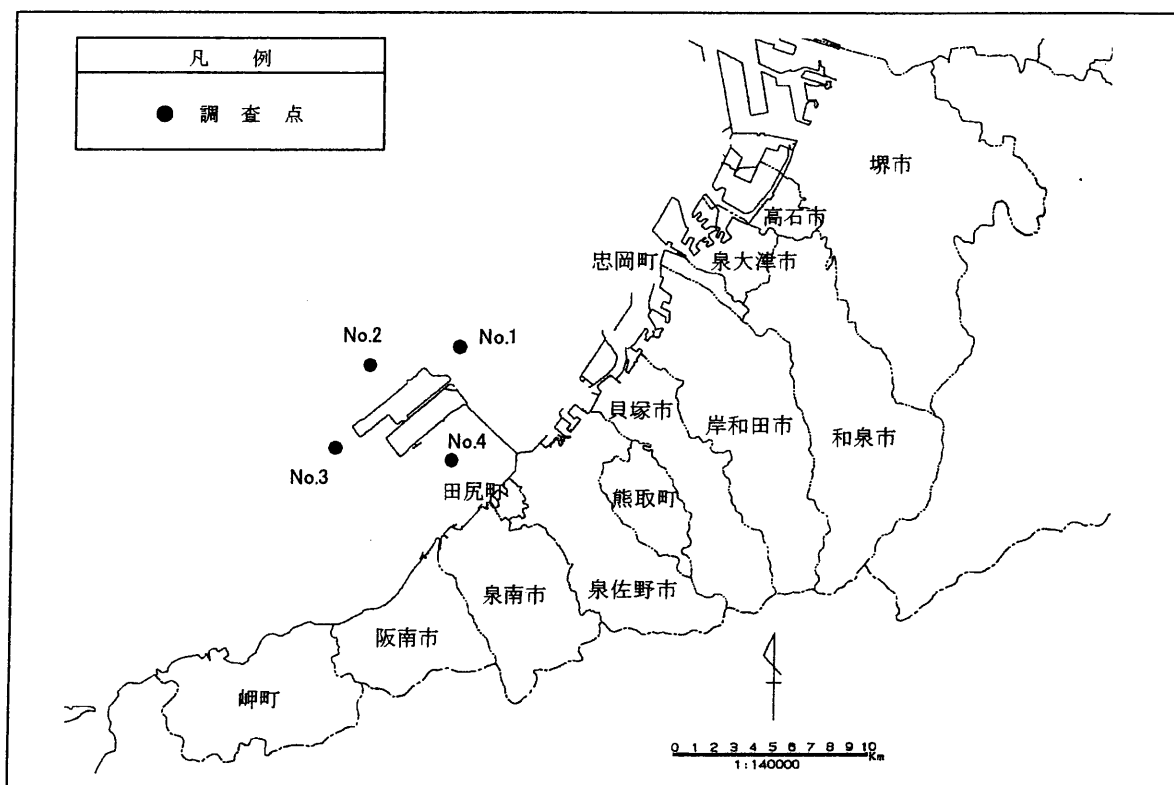


図 1 - 1 海域生物調査点 - 空港島周辺海域

表 1-3 海域生物調査点 (緯度・経度) - 内部水面海域

調査点	北 緯	東 経
N 1	34° 26' 39"	135° 14' 59"
N 2	34° 26' 01"	135° 14' 03"
N 3	34° 25' 31"	135° 13' 00"

注) 緯度・経度は世界測地系である。

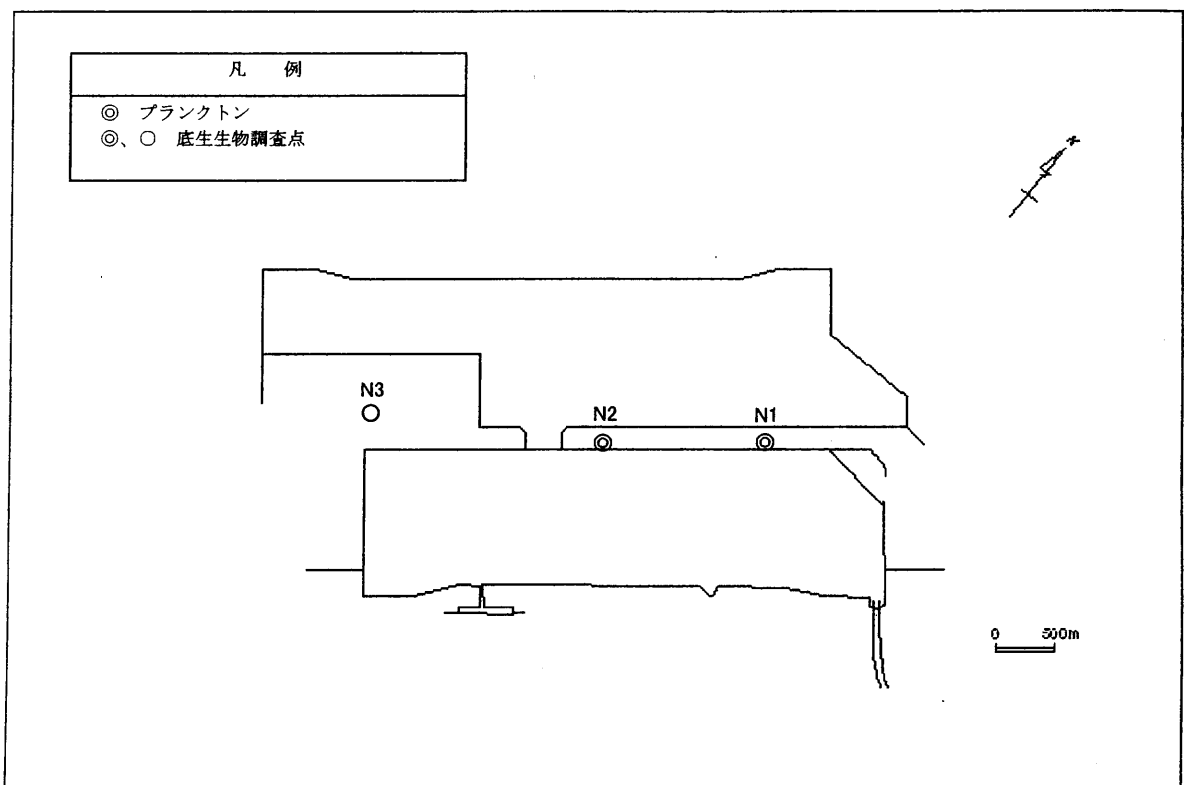


図 1-2 海域生物調査点 - 内部水面海域

4 調査内容

(1) 調査頻度

海域生物の調査は季節毎に行い、その実施月は表1-4に示すとおりである。

表 1 - 4 調査頻度

調査項目		調査頻度	平成22年									平成23年			
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
空港島 周辺海域	底生生物	年1回		○											
	漁業生物	年1回		○											
内部水面 海域	植物プランクトン	年1回		○											
	動物プランクトン	年1回		○											
	底生生物	年3回		○			○						○		

## (2) 調査方法

### ア プランクトン等

プランクトン等は次の方法により採取したものを試料とし、表1-5に示す方法により分析を行った。

#### (ア) 植物プランクトン

植物プランクトンは、バンドーン型採水器を用いて所定の水深である上層(海面下1 m)、中層(水深中央)、下層(海底面上2 m)から採水し、1~3%のホルマリンで固定し、同定試料とした。

試料は24時間以上静置した後、沈澱量を測定し、種類を同定し、種類毎に細胞数を計測した。

#### (イ) 動物プランクトン

動物プランクトンは、ろ水計を装着した北原式プランクトンネットを使用し、海底面上1 mから海表面までの鉛直曳を2回行って採取し、4~10%のホルマリンで固定し、同定試料とした。

試料は24時間以上静置した後、沈澱量を測定し、種類を同定し、種類毎に個体数を計測した。

#### (ウ) 底生生物

底生生物はマクロベントスとし、スミス・マッキンタイヤ型採泥器(採泥面積0.15 m<sup>2</sup>)を使用して1地点3回の採泥を行い、1 mm目のフルイに残ったものを10%のホルマリンで固定し、同定試料とした。

試料は種類を同定し、種類毎に個体数、湿重量を計測した。

表1-5 生物調査分析方法

項目	分析方法
植物プランクトン	海洋観測指針(第1部・1999年)6.2に準ずる方法
動物プランクトン	海洋観測指針(第1部・1999年)6.2に準ずる方法
底生生物	海洋観測指針(1990年)9.8に準ずる方法

### イ 漁業生物

試料は、小型底曳網漁船による石桁網を使用し、約1.0m/secで15分間曳網して採取した。

試料は、大阪湾で一般に利用されている漁業生物について種類を同定し、種類毎に個体数、湿重量を計測した。

## II 環境監視結果

## 空港島周辺海域

# 1 底生生物調査結果

底生生物調査結果総括表[平成22年度]－空港島周辺海域

調査月		5月	
調査日		平成22年5月16日	
調査点数		4	
項目	区分	最小値～最大値	平均値
種類数	軟体動物門 [16]	3～14	16
	環形動物門 [29]	5～19	29
	節足動物門 [15]	0～13	15
	その他 [11]	2～8	11
	合計 [71]	12～54	71
個体数	軟体動物門	33～111	55
	環形動物門	10～92	51
	節足動物門	0～27	9
	その他	9～113	37
	合計	63～258	152
個組 体成 数比 (%)	軟体動物門	12.8～82.2	36.2
	環形動物門	11.1～61.3	33.3
	節足動物門	0.0～10.5	5.9
	その他	6.7～43.8	24.6
湿 重 量 (g)	軟体動物門	0.49～4.12	1.71
	環形動物門	0.17～2.29	0.97
	節足動物門	0.00～1.66	0.50
	その他	6.19～37.39	17.23
	合計	8.13～40.77	20.41
主要種 個体数 (%)		シズカガイ 45 (29.6) 星口動物門の一種 18 (11.8)	

注1) 個体数、湿重量は0.15m<sup>2</sup>当たりで示す。湿重量の+は0.01g未満を示す。  
 注2) 種類数の平均は総種類数を示す。  
 注3) 主要種は各調査点での個体数の上位5種のうち、組成比率が10%以上のものを示す。

底生生物調査結果[平成22年5月分]—空港島周辺海域

調査日：平成22年5月16日

調査点		1	2	3
項目				
種類数	軟体動物門	3	3	14
	環形動物門	9	5	19
	節足動物門	0	2	13
	その他	3	2	8
	合計	15	12	54
個体数	軟体動物門	111	42	33
	環形動物門	15	10	85
	節足動物門	0	2	27
	その他	9	9	113
	合計	135	63	258
個体数 組成比 [%]	軟体動物門	82.2	66.6	12.8
	環形動物門	11.1	15.9	32.9
	節足動物門	0.0	3.2	10.5
	その他	6.7	14.3	43.8
湿重量 [g]	軟体動物門	4.12	1.48	0.49
	環形動物門	0.17	0.45	0.95
	節足動物門	0.00	0.01	1.66
	その他	7.34	6.19	17.99
	合計	11.63	8.13	21.09
主要種の種名 個体数 [%]	シズクガイ 109 (80.7)	シズクガイ 40 (63.5) オカメブンブク 7 (11.1)	星口動物門の一種 72 (27.9) チマキゴカイ科の一種 29 (11.2)	
泥温 [°C]	14.8	14.9	15.2	

注1) 個体数、湿重量は0.15㎡当たりで示す。

注2) 主要種は各調査点での個体数の上位5種のうち、組成比率が10%以上のものを示す。

底生生物調査結果[平成22年5月分]—空港島周辺海域

調査日：平成22年5月16日

調査点		4	平均
項目			
種類数	軟体動物門	4	16
	環形動物門	13	29
	節足動物門	3	15
	その他	6	11
	合計	26	71
個体数	軟体動物門	33	55
	環形動物門	92	51
	節足動物門	7	9
	その他	18	37
	合計	150	152
個体数 組成比 [%]	軟体動物門	22.0	36.2
	環形動物門	61.3	33.3
	節足動物門	4.7	5.9
	その他	12.0	24.6
湿重量 [g]	軟体動物門	0.75	1.71
	環形動物門	2.29	0.97
	節足動物門	0.34	0.50
	その他	37.39	17.23
	合計	40.77	20.41
主要種の種名 個体数 [%]	カタマガリギボシイソメ 58 (38.7) シズクガイ 29 (19.3)	シズクガイ 45 (29.6) 星口動物門の一種 18 (11.8)	
泥温 [°C]	14.9	15.0	

注1) 個体数、湿重量は0.15㎡当たりで示す。

注2) 種類数の平均は総種類数を示す。

注3) 主要種は各調査点での個体数の上位5種のうち、組成比率が10%以上のものを示す。



## 2 漁業生物調査結果

漁業生物調査結果総括表[平成22年度]—空港島周辺海域

項目		季節	5月	
		調査日	平成22年5月12日	
		調査点数	4	
区分		最小値～最大値	平均値	
種類数	魚類 [9]	1～5	9	
	甲殻類(エビ・カニ類) [3]	0～2	3	
	頭足類(イカ・タコ類) [1]	0～1	1	
	その他 [0]	0～0	0	
	合計 [13]	4～6	13	
個体数	魚類	4～5	5	
	甲殻類(エビ・カニ類)	0～2	1	
	頭足類(イカ・タコ類)	0～1	0	
	その他	0～0	0	
	合計	5～7	6	
湿重量 (g)	魚類	107.0～1516.3	741.0	
	甲殻類(エビ・カニ類)	0.0～18.6	6.0	
	頭足類(イカ・タコ類)	0.0～24.6	6.2	
	その他	0.0～0.0	0.0	
	合計	407.0～1516.3	753.2	
主要種 個体数(%)		マコガレイ	2 (33.3)	
		メイカガレイ	1 (16.7)	

注1) 個体数、湿重量は1網当りです。

注2) 種類数の平均は総種類数を示す。また、[ ]内の数値は年間を通しての総種類数を示す。

注3) 主要種は各測定点での個体数の上位5種のうち、組成比率が10%以上のものを示す。

漁業生物(目録種)調査結果[平成22年5月分]—空港島周辺海域

調査日：平成22年5月12日

調査点		1	2	3	4
項目					
種類数	魚類	4	5	4	1
	甲殻類(エビ・カニ類)	2	0	0	2
	頭足類(イカ・タコ類)	0	0	0	1
	その他	0	0	0	0
	合計	6	5	4	4
個体数	魚類	5	5	5	4
	甲殻類(エビ・カニ類)	2	0	0	2
	頭足類(イカ・タコ類)	0	0	0	1
	その他	0	0	0	0
	合計	7	5	5	7
湿重量 [g]	魚類	450.0	1516.3	407.0	590.8
	甲殻類(エビ・カニ類)	18.6	0.0	0.0	5.2
	頭足類(イカ・タコ類)	0.0	0.0	0.0	24.6
	その他	0.0	0.0	0.0	0.0
	合計	468.6	1516.3	407.0	620.6
主要種 個体数 [%]	メイカレイ 2 (28.6) ヒメオコゼ 1 (14.3) ホウホウ 1 (14.3) ヒラメ 1 (14.3) アカエビ 1 (14.3) シヤコ 1 (14.3)	アカエイ 1 (20.0) ヒメオコゼ 1 (20.0) タカノゾウヒラメ 1 (20.0) メイカレイ 1 (20.0) マコレイ 1 (20.0)	メイカレイ 2 (40.0) シログチ 1 (20.0) マコレイ 1 (20.0) イヌシタ 1 (20.0)	マコレイ 4 (57.1) トラエビ 1 (14.3) シヤコ 1 (14.3) ミミカ 1 (14.3)	

注1) 個体数、湿重量は1網当たりで示す。

注2) 主要種は各調査点での個体数の上位5種のうち、組成比率が10%以上のものを示す。

漁業生物(目録種)調査結果[平成22年5月分]—空港島周辺海域

調査日：平成22年5月12日

調査点		平均
項目		
種類数	魚 類	9
	甲殻類 (エビ・カニ類)	3
	頭足類 (イカ・タコ類)	1
	その他	0
	合 計	13
個体数	魚 類	5
	甲殻類 (エビ・カニ類)	1
	頭足類 (イカ・タコ類)	0
	その他	0
	合 計	6
湿重量 [g]	魚 類	741.0
	甲殻類 (エビ・カニ類)	6.0
	頭足類 (イカ・タコ類)	6.2
	その他	0.0
	合 計	753.2
主要種 個体数 [%]		マコガレイ 2 (33.3) メイカガレイ 1 (16.7)

注1) 個体数、湿重量は1網当たりで示す。

注2) 種類数の平均は総種類数を示す。

注3) 主要種は各調査点での個体数の上位5種のうち、組成比率が10%以上のものを示す。



内部水面海域

### 3 植物プランクトン調査結果

植物プランクトン調査結果（全層）総括表 - 内部水面海域

[平成22年度]

項目	調査月	5月		
	調査日	平成22年5月16日		
	調査点数	2		
区分	最小値	～	最大値	平均値
種類数	[32]	14 ~ 24		32
細胞数 (Cells/L)		126600 ~ 2828640		978490
沈殿量 (mL/L)		0.04 ~ 0.16		0.09
主要種 細胞数 (%)	スケルトネマ コスタタム		577760 (59.1)	
	レプトキリンドルス ダニクス		219440 (22.4)	

注1) 種類数の平均は総種類数を示す。また、[ ]内の数値は年間を通しての総種類数を示す。  
 注2) 主要種は各季での細胞数の上位5種のうち、組成比率が10%以上のものを示す。

植物プランクトン調査結果[平成22年5月分]—内部水面海域

調査日：平成22年5月16日

項目	調査点		
	N1		
	上層	中層	下層
種類数	20	21	14
細胞数[cells/L]	203100	320100	298980
沈殿量[mL/L]	0.06	0.06	0.04
主要種 細胞数[%]	レプトキリンドルス ダニクス 56160 (27.7) スケレトネマ コスタタム 43200 (21.3) クリプト藻綱 34080 (16.8) 不明生物 24000 (11.8) プラシノ藻綱 22080 (10.9)	スケレトネマ コスタタム 204480 (63.9) レプトキリンドルス ダニクス 76800 (24.0)	スケレトネマ コスタタム 225600 (75.5) レプトキリンドルス ダニクス 52800 (17.7)
水温[°C]	16.1	15.2	14.7
塩分[—]	30.9	31.5	31.9

項目	調査点		
	N2		
	上層	中層	下層
種類数	24	20	17
細胞数[cells/L]	2093520	2828640	126600
沈殿量[mL/L]	0.12	0.16	0.08
主要種 細胞数[%]	スケレトネマ コスタタム 887040 (42.4) レプトキリンドルス ダニクス 599040 (28.6) クリプト藻綱 255360 (12.2)	スケレトネマ コスタタム 2016000 (71.3) レプトキリンドルス ダニクス 512640 (18.1)	スケレトネマ コスタタム 90240 (71.3) レプトキリンドルス ダニクス 19200 (15.2)
水温[°C]	15.8	15.3	14.6
塩分[—]	30.9	30.9	31.8

項目	調査点		
	平均		
	上層	中層	下層
種類数	26	26	21
細胞数[cells/L]	1148310	1574370	212790
沈殿量[mL/L]	0.09	0.11	0.06
主要種 細胞数[%]	スケレトネマ コスタタム 465120 (40.5) レプトキリンドルス ダニクス 327600 (28.5) クリプト藻綱 144720 (12.6)	スケレトネマ コスタタム 11110240 (70.5) レプトキリンドルス ダニクス 294720 (18.7)	スケレトネマ コスタタム 157920 (74.2) レプトキリンドルス ダニクス 36000 (16.9)
水温[°C]	15.9	15.2	14.7
塩分[—]	30.9	31.2	31.9

注1) 種類数の平均は総種類数を示す。

注2) 主要種は各調査点での上位5種のうち、組成比率が10%以上のものを示す。

注3) 上層：海面下1m，中層：水深の1/2，下層：海底面上2m

## 4 動物プランクトン調査結果

動物プランクトン調査結果総括表[平成22年度]－内部水面海域

季節		5月
調査日		平成22年5月16日
調査点数		2
種類数 [26]	最小値	21
	最大値	21
	平均値	26
個体数 (個体/m <sup>3</sup> )	最小値	8980
	最大値	9050
	平均値	9015
沈殿量 (mL/L)	最小値	0.004
	最大値	0.006
	平均値	0.005
主要種 個体数(%)	橈脚亜綱のノブリス期幼生                      2650 (29.3) オトケ属のコペポダイト期幼生                      1260 (13.9)	

注1) 種類数の平均は総種類数を示す。

注2) 主要種は各調査点での上位5種のうち、組成率が10%以上のものを示す。

動物プランクトン調査結果[平成22年5月分]—内部水面海域

調査日：平成22年5月16日

項目	調査点	N1	N2
種類数		21	21
個体数 [個体/m <sup>3</sup> ]		8980	9050
沈殿量 [mL/L]		0.004	0.006
主要種 個体数 [%]		橈脚亜綱のノープリウス期幼生 2550 (28.4) オイトナ属のコペポダイト期幼生 1370 (15.3) オイトナ シミリス 950 (10.6)	橈脚亜綱のノープリウス期幼生 2750 (30.4) オイトナ属のコペポダイト期幼生 1150 (12.7)
水温 [°C]		上層： 16.1 下層： 14.7	上層： 15.8 下層： 14.6
塩分 [ー]		上層： 30.9 下層： 31.9	上層： 30.9 下層： 31.8

項目	調査点	平均
種類数		26
個体数 [個体/m <sup>3</sup> ]		9015
沈殿量 [mL/L]		0.005
主要種 個体数 [%]		橈脚亜綱のノープリウス期幼生 2650 (29.3) オイトナ属のコペポダイト期幼生 1260 (13.9)
水温 [°C]		上層： 15.9 下層： 14.7
塩分 [ー]		上層： 30.9 下層： 31.9

注1) 種類数の平均は総種類数を示す。

注2) 主要種は各調査点での上位5種のうち、組成比率が10%以上のものを示す。

注3) 水温と塩分の上層は海面下1m、下層は海底面上2m。

## 5 底生生物調査結果

底生生物調査結果総括表[平成22年度]—内部水面海域

調査月		5月		8月		2月	
調査日		平成22年5月16日		平成22年8月3日		平成23年2月8日	
調査点数		3		3		3	
項目	区分	最小値～最大値		最小値～最大値		最小値～最大値	
		平均値		平均値		平均値	
種類数	軟体動物門 [18]	4～7	10	3～6	8	0～9	10
	環形動物門 [38]	9～20	25	4～17	21	4～19	23
	節足動物門 [8]	0～2	2	0～4	4	0～4	4
	その他 [10]	3～6	8	2～4	6	0～5	5
	合計 [74]	21～31	45	11～26	39	5～37	42
個体数	軟体動物門	31～84	51	10～28	16	0～11	4
	環形動物門	37～146	98	25～85	58	12～77	34
	節足動物門	0～5	3	0～10	4	0～7	2
	その他	6～10	8	3～6	5	0～27	9
	合計	87～202	160	59～100	83	12～122	49
個組成比 (%)	軟体動物門	16.1～43.8	31.8	10.0～47.5	19.3	0.0～9	8.2
	環形動物門	42.5～76.1	61.3	42.4～85.0	69.9	63.1～100	69.4
	節足動物門	0.0～3.4	1.7	0.0～11.0	4.8	0.0～5.7	4.1
	その他	3.0～10.3	5.2	5.0～6.6	6.0	0.0～22.1	18.4
湿重量 (g)	軟体動物門	0.53～2.29	1.43	0.19～2.40	1.00	0.00～1.51	0.55
	環形動物門	1.33～3.78	2.94	1.45～3.31	2.31	0.09～1.04	0.50
	節足動物門	0.00～0.01	0.01	0.00～0.01	0.00	0.00～0.06	0.02
	その他	1.06～11.01	6.03	1.73～10.34	5.85	0.00～6.8	2.27
	合計	6.25～15.33	10.41	5.44～14.19	9.16	0.09～8.03	3.34
主要種 個体数 (%)		カクマカ*リキ*ホ*シイソメ 54(33.8) シ*カ*イ 41(25.6)		カクマカ*リキ*ホ*シイソメ 30(36.1) ク*フ*シ*カ*イ科の一種 14(16.9) シ*カ*イ 12(14.5)		カクマカ*リキ*ホ*シイソメ 11(22.4) 星口動物門の一種 6(12.2)	

注1) 個体数、湿重量は0.15m2当たりで示す。湿重量の+は0.01g未満を示す。

注2) 種類数の平均は総種類数を示す。

注3) 主要種は各調査点での個体数の上位5種のうち、組成比率が10%以上のものを示す。

底生生物調査結果[平成22年5月分]－内部水面海域

調査日：平成22年5月16日

調査点		N1	N2	N3
項目				
種類数	軟体動物門	6	7	4
	環形動物門	20	14	9
	節足動物門	1	0	2
	その他	4	3	6
	合計	31	24	21
個体数	軟体動物門	31	84	38
	環形動物門	146	112	37
	節足動物門	5	0	3
	その他	10	6	9
	合計	192	202	87
個体数 組成比 [%]	軟体動物門	16.1	41.6	43.8
	環形動物門	76.1	55.4	42.5
	節足動物門	2.6	0.0	3.4
	その他	5.2	3.0	10.3
	合計	100.0	100.0	100.0
湿重量 [g]	軟体動物門	0.53	1.48	2.29
	環形動物門	3.78	3.71	1.33
	節足動物門	0.01	0.00	0.01
	その他	11.01	1.06	6.02
	合計	15.33	6.25	9.65
主要種の種名 個体数 [%]	カタマガリギボシイソメ 75 (39.1) シズクガイ 22 (11.5) タケフシゴカイ科の一種 21 (10.9)	シズクガイ 65 (32.2) カタマガリギボシイソメ 64 (31.7) タケフシゴカイ科の一種 24 (11.9)	シズクガイ 35 (40.2) カタマガリギボシイソメ 23 (26.4)	
泥温 [°C]	14.4	15.2	14.4	

注1) 個体数、湿重量は0.15㎡当たりで示す。

注2) 主要種は各調査点での個体数の上位5種のうち、組成比率が10%以上のものを示す。

底生生物調査結果[平成22年5月分]—内部水面海域

調査日：平成22年5月16日

調査点		平均
項目		
種類数	軟体動物門	10
	環形動物門	25
	節足動物門	2
	その他	8
	合計	45
個体数	軟体動物門	51
	環形動物門	98
	節足動物門	3
	その他	8
	合計	160
個体数 組成比 [%]	軟体動物門	31.8
	環形動物門	61.3
	節足動物門	1.7
	その他	5.2
	合計	100.0
湿重量 [g]	軟体動物門	1.43
	環形動物門	2.94
	節足動物門	0.01
	その他	6.03
	合計	10.41
主要種の種名 個体数 [%]	カタマガリギボシイソメ 54 (33.8) シズクガイ 41 (25.6)	
泥温 [°C]	14.7	

注1) 個体数、湿重量は0.15㎡当たりで示す。

注2) 種類数の平均は総種類数を示す。

注3) 主要種は各調査点での個体数の上位5種のうち、組成比率が10%以上のものを示す。

底生生物調査結果[平成22年 8月分]—内部水面海域

調査日：平成22年8月3日

調査点		N1	N2	N3
項目				
種類数	軟体動物門	4	6	3
	環形動物門	11	17	4
	節足動物門	4	0	2
	その他	4	3	2
	合計	23	26	11
個体数	軟体動物門	11	10	28
	環形動物門	64	85	25
	節足動物門	10	0	3
	その他	6	5	3
	合計	91	100	59
個体数 組成比 [%]	軟体動物門	12.1	10.0	47.5
	環形動物門	70.3	85.0	42.4
	節足動物門	11.0	0.0	5.1
	その他	6.6	5.0	5.1
湿重量 [g]	軟体動物門	0.19	0.40	2.40
	環形動物門	2.18	3.31	1.45
	節足動物門	0.01	0.00	0.00
	その他	5.47	1.73	10.34
	合計	7.85	5.44	14.19
主要種の種名 個体数 [%]	カタマガリギボシイソメ 31 (34.1) タケフシゴカイ科の一種 17 (18.7)	カタマガリギボシイソメ 37 (37.0) タケフシゴカイ科の一種 26 (26.0)	シズクガイ 23 (39.0) カタマガリギボシイソメ 21 (35.6)	
泥温 [°C]	22.3	21.9	22.0	

注1) 個体数、湿重量は0.15㎡当たりで示す。

注2) 主要種は各調査点での個体数の上位5種のうち、組成比率が10%以上のものを示す。

底生生物調査結果[平成22年 8月分]－内部水面海域

調査日：平成22年8月3日

調査点		平均
項目		
種類数	軟体動物門	8
	環形動物門	21
	節足動物門	4
	その他	6
	合計	39
個体数	軟体動物門	16
	環形動物門	58
	節足動物門	4
	その他	5
	合計	83
個体数 組成比 [%]	軟体動物門	19.3
	環形動物門	69.9
	節足動物門	4.8
	その他	6.0
湿重量 [g]	軟体動物門	1.00
	環形動物門	2.31
	節足動物門	0.00
	その他	5.85
	合計	9.16
主要種の種名 個体数 [%]	カタマガリギボシイソメ 30 (36.1) タケフシゴカイ科の一種 14 (16.9) シズクガイ 12 (14.5)	
泥温 [°C]	22.1	

注1) 個体数、湿重量は0.15㎡当たりで示す。

注2) 種類数の平均は総種類数を示す。

注3) 主要種は各調査点での個体数の上位5種のうち、組成比率が10%以上のものを示す。

底生生物調査結果[平成23年2月分]—内部水面海域

調査日：平成23年2月8日

調査点		N1	N2	N3
項目				
種類数	軟体動物門	9	0	1
	環形動物門	19	7	4
	節足動物門	4	0	0
	その他	5	0	0
	合計	37	7	5
個体数	軟体動物門	11	0	1
	環形動物門	77	12	14
	節足動物門	7	0	0
	その他	27	0	0
	合計	122	12	15
個体数 組成比 [%]	軟体動物門	9.0	0.0	6.7
	環形動物門	63.1	100.0	93.3
	節足動物門	5.7	0.0	0.0
	その他	22.1	0.0	0.0
湿重量 [g]	軟体動物門	0.13	0.00	1.51
	環形動物門	1.04	0.09	0.36
	節足動物門	0.06	0.00	0.00
	その他	6.80	0.00	0.00
	合計	8.03	0.09	1.87
主要種の種名 個体数 [%]	カタマガリギボシイソメ 33 (27.0) 星口動物門の一種 18 (14.8)	カタマガリギボシイソメ 4 (33.3) クシカギゴカイ 3 (25.0)	クシカギゴカイ 7 (46.7) ヨツバネスピオA型 5 (33.3)	
泥温 [°C]	7.9	8.4	8.5	

注1) 個体数、湿重量は0.15㎡当たりで示す。

注2) 主要種は各調査点での個体数の上位5種のうち、組成比率が10%以上のものを示す。

注3) 覆砂工事により今回から測定点N1及びN2の底質が変化している。

底生生物調査結果[平成23年2月分]—内部水面海域

調査日：平成23年2月8日

調査点		平均
項目		
種類数	軟体動物門	10
	環形動物門	23
	節足動物門	4
	その他	5
	合計	42
個体数	軟体動物門	4
	環形動物門	34
	節足動物門	2
	その他	9
	合計	49
個体数 組成比 [%]	軟体動物門	8.2
	環形動物門	69.4
	節足動物門	4.1
	その他	18.4
湿重量 [g]	軟体動物門	0.55
	環形動物門	0.50
	節足動物門	0.02
	その他	2.27
	合計	3.34
主要種の種名 個体数 [%]	カタマガリギボシイソメ 11 (22.4) 星口動物門の一種 6 (12.2)	
泥温 [°C]	8.3	

注1) 個体数、湿重量は0.15㎡当たりで示す。

注2) 種類数の平均は総種類数を示す。

注3) 主要種は各調査点での個体数の上位5種のうち、組成比率が10%以上のものを示す。

[ 資 料 ]

[工事の実施状況]

平成22年度の2期工事の実施状況は、次に示すとおりです。

1. 2期事業に係る工事の実施状況

工 事 内 容		平成22年									平成23年			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
護岸部	上部工 コンクリート													
	本体工 捨石													
	被覆石													
	基礎工 地盤改良													
	盛砂													
	捨石													
	埋立部 造成工													
	海底地形の整形(覆砂)													

2. 泉州港工事に係る工事の実施状況

工事なし。

[各月の監視結果の概要]

平成 22 年度の月報において記載した各月の監視結果の概要は、次に示すとおりである。

平成 22 年 5 月分

(1) 海域生物

春季における海域生物として、周辺海域において底生生物と漁業生物、内部水面海域においてプランクトンと底生生物の調査を行った。

● 周辺海域

主な出現種として、底生生物はシズクガイ、星口動物門の一種、漁業生物はマコガレイ、メイタガレイなど大阪湾に普通にみられる種が確認された。

● 内部水面海域

主な出現種として、植物プランクトンはスケルトネマ コスタタム、レプトキリンドルス ダニクス、クリプト藻綱、動物プランクトンは橈脚亜綱のノープリウス期幼生、オイトナ属のコペポダイト期幼生、底生生物はカタマガリギボシイソメ、シズクガイなど大阪湾に普通にみられる種が確認された。

平成 22 年 8 月分

(1) 海域生物

夏季における海域生物として、内部水面海域において底生生物の調査を行った。

● 内部水面海域

主な出現種として、底生生物はカタマガリギボシイソメ、タケフシゴカイ科の一種、シズクガイなど大阪湾に普通にみられる種が確認された。

平成 23 年 2 月分

(1) 海域生物

冬季における海域生物として、内部水面海域において底生生物の調査を行った。

● 内部水面海域

主な出現種として、底生生物はカタマガリギボシイソメ、星口動物門の一種など大阪湾に普通にみられる種が確認された。